

令和6年6月6日(木曜日)～19日(水曜日)受講者数:68名

主催:文部科学省、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

司書として必要な高度かつ専門的な知識・技術に関する研修を行い、都道府県・指定都市等での指導的立場になりうる司書及び図書館経営の中核を担うリーダーとしての力量を高めることをねらいとして実施した。

受講者がより効果的に学びやすい環境を考慮し、講義部分をオンライン形式、演習部分を集合形式で実施した。

テーマ「ウェルビーイングの実現に向けた図書館の学び合い・支え合い」

基調講義 「ウェルビーイングの実現をめざす図書館の在り方」

公益社団法人 日本図書館協会 理事長 植松 貞夫

図書館が現在置かれている状況を確認したうえで、ウェルビーイングを実現するための方向性を示された。特に公立図書館の特質として5つの要素を上げられ、図書館は全ての地域住民(利用対象者)へのウェルビーイング実現に適した機能をもつ施設であることを確認することができた。



行政説明 「図書館行政の動向」

文部科学省総合教育政策局地域学習推進課 図書館・学校図書館振興室 専門官 毛利 るみこ

図書館の現状を踏まえた上で、図書館行政の方向性、制度や計画の動向等について説明があった。



講義

六つのテーマを設定し、それぞれの分野に造詣の深い講師から、丁寧かつ分かりやすく、また時にユーモアを交えながらの講義があった。

①「図書館の基準・運営方針をめぐる論点整理」
筑波大学 名誉教授 薬袋 秀樹



②「図書館サービスの論点整理」
千葉経済大学短期大学部 教授 叶多 泰彦



③「図書館における学び合い・支え合い」
近畿大学通信教育部 非常勤講師 赤山 みほ



④「図書館の危機管理」
関東学院大学社会学部 教授 千 錫烈



⑤「図書館における人材育成と司書の専門性」
青山学院大学コミュニティ人間科学部 教授 大谷 康晴



⑥「子どもの読書活動の推進における図書館の役割」
鶴見大学文学部 教授 河西 由美子



事例研究

事例研究Ⅰ「図書館の可能性を探る～今日的視点から考える図書館サービス～」

講師 十文字学園女子大学教育人文学部

教授 石川 敬史

事例① おおぶ文化交流の杜図書館

チーフ 小倉 明美

事例② 海士町中央図書館

館長 磯谷 奈緒子



事例研究Ⅱ「ユニバーサルデザインと障害者サービスの実際」

講師 株式会社ユーディット

会長兼シニアフェロー 関根 千佳

事例①浦安市立中央図書館児童・地域支援サービス係

係長 相馬 幸代

事例②鳥取県立図書館

司書 松尾 佳美



事例研究Ⅲ「図書館の経営と評価」

講師 筑波大学図書館情報メディア系

准教授 池内 淳

事例①豊中市教育委員会事務局読書振興課

課長 西口 光夫

事例②東京都立中央図書館管理部企画経営課

課長代理 中村 茂彦



事例研究Ⅳ「図書館における学び合い・支え合い支援の実際」

講師 明治大学文学部

専任教授 青柳 英治

事例①長崎市立図書館

サブチーフ 山田 あゆみ

事例②足立区立中央図書館読書活動推進係

係長 福澤 紘太



各事例研究において、講師から事例を聞く視点が示されたことで、受講者はテーマを意識して事例発表を聞くことができた。テーマに迫る講師からの講義やブレイクアウトルームでの意見交換、メインルームでの質疑応答等を通じた事例からの学びの共有から、ウェルビーイングの実現をめざす図書館の具体的な取組について理解を深めることができた。

シンポジウム

「図書館の可能性を探る ～図書館は地域住民の学習をどこまで支援できるか～」

コーディネーター 石川県立図書館 館長 田村 俊作
登壇者 福山市中央図書館 明石 浩
県立長野図書館 館長 森 いづみ
鎌倉市玉縄図書館 館長 佐藤 敦子

明石氏から「外国から働きに来ている方への支援」に関する事例、森氏から「デジタル図書でつながる支援」に関する事例、佐藤氏から「レファレンスから地域資料の活用につながる支援」に関する事例についてそれぞれ発表があった。その後の討議では、取組の基盤、他とのつながり、今後の展望等について各事例の成果と課題を深めた。最後に田村氏から図書館サービスの在り方について、また、今後図書館が取り組むべき方向性や可能性について話があり、図書館としてのウェルビーイングの実現に向けた地域住民の学習支援について理解を深めることができた。



田村氏



明石氏



森氏



佐藤氏

講義・演習

①講義・演習「図書館資料の収集と情報提供」
亜細亜大学 教授 安形 輝



安形氏

②講義・演習「レファレンスサービスの方法と実際」
明治大学文学部 専任教授 齋藤 泰則



齋藤氏

③講義・演習「図書館を核としたまちづくり」
田原市図書館 館長 是住 久美子



是住氏

講師による講義とグループワークを通してテーマに迫った。「図書館資料の収集と情報提供」では、生成AIに触れ、選書の在り方について理解を深めることができた。「レファレンスサービスの方法と実際」では、事前課題の解答を通して、職員に求められる知識・技能・態度について迫ることができた。「図書館を核としたまちづくり」では、ロジックモデルの作成を通して、まちづくりの核となる図書館が有する機能について、学ぶことができた。

演習

「図書館サービス計画の企画・立案」

ゆうき図書館 係長 長谷川 拓哉
松戸市立図書館 主任主事 村上 さつき
宮城県図書館企画協力班 主任主査 熊谷 慎一郎

これまでの講義での学びを活用し、総合的に理解を深めることを目的として、4人一組の17グループが3つの部屋に分かれて図書館サービス計画を立案した。「課題解決・地域支援サービス」や「図書館資料の構築と管理」等、グループごとにテーマを設定し、モデル自治体の現状や図書館サービスの課題を分析・整理した上で、ウェルビーイングの視点を取り入れつつ、課題解決につながる新たなサービス計画を作成した。完成した計画は、上司にプレゼンテーションするという想定で発表を行った。



長谷川氏

村上氏

熊谷氏

特別講演

「図書館とともに創る地域の未来」

かまくらさちこ株式会社 代表取締役 鎌倉 幸子

カンボジアや東日本大震災の被災地で本を届ける様々な活動について紹介され、私たちの生活において学ぶということがいかに大切で、ウェルビーイングの実現に欠かせないものであるかということを確認することができた。改めて、図書館の力、司書の力の必要性、重要性を熱く述べられる講師の姿に、画面越しではあるが、涙を流しながら学ぶ受講者の姿も見られた。



参加者の声

- ・図書館業務全般の土台となる法令法規の重要性を再認識しました。サービスの根幹を支えているのが法令で、その上に理念や経営があり、その後ようやく末端のサービスが積みあがっていくということをしっかり意識して、今後の業務の改善や新規事業の立ち上げに役立てていきたい。
- ・全国の図書館の現状を知ることができ、とても有意義な時間でした。
- ・オンライン、集合それぞれの良さが活かされた研修でした。
- ・事務局の皆様は前向きなオーラがあふれていて、とてもポジティブな気持ちで受講することができました。
- ・ウェルビーイングを実現する上で、図書館こそ役割を果たすのに最適な施設であると感じました。
- ・日々の業務をただ「こなす」ばかりになっていましたが、今回の講座により、日常の業務がどういう意味をもつのか意識して働く重要性を感じました。